## 海外の話題

# さまよえる…。

北京駐在員事務所長　平山　勝英

小学校高学年か中学生くらいの頃，スウェーデンの探険家が書いた「さまよえる湖」という探検記を読んだ記憶があります。現在の新疆ウィグル自治区南東部にかつて存在したロプノール湖という塩水湖に関する探検記で，「さまよう」理由は，水深が浅く周囲を砂丘に囲まれた湖が，流れ込む河川の流量や周辺部の砂丘の地形の変化により，長い時間をかけて移動しているのではないか，というものでした（→実際にはその後の研究で「移動」しているのではなく，周辺の河川からの注水と蒸発が繰り返されていた，とされています）。96 年まで核実験が行われた地区にも近く，さすがに観光に訪れようと思ったことは正直ありませんし，人里はなれた地域ゆえ出張で訪れる機会もありません。よって，「さまよえる湖」のことはすっかり忘れていたのですが，実はここ中国でよく意識するものとして「さまよえる祝日」があることをご存知でしょうか？

6 月 12 日（水）が何の日であったかご記憶にある方は多くはないと思いますが，中国や東南アジアの中華圏では「端午節」という祝日で，休日となっていたところも多く，そうでないにしても粽を食べたり，特に南の地域ではドラゴンボート大会が開催されたり，特別な日であったことは確かです。6 月 12 日そのものは旧暦に照らした間違いのない端午節で，アジア各国で祝日とされる旧暦 1 月 1 日（春節）同様にきちんとした根拠のある日です。

ただ，ここ北京では，というよりも中国全土では，週の真ん中にぽつんとあった同日にかなり強引にその前の平日 2 日間（6 月 10 日（月）と 11 日（火））をつける形で 3 連休となりました。普通に考えるとその前の土日の 2 日間も足されて 5 連休となってしまいます。一般国民にとっては良いことですが，こんなことをしていると年間の稼働日数が減ってしまい生産性が落ち込み，国家としての競争力としてどうなのかと思います。実は，8 日と 9 日の土日は基本的には「平日（営業日）扱い」とされ，3 連休の前は 7 連続出勤日となっており，実質的な「土日以外の休日」は端午節当日のみという形で辻褄合わせが行われていたのでした。しかもこういった「調整」は 1 年分が前年 12 月末にならないと発表されないため，「旧暦〇月〇日は祝日」まではわかっても，その前後の休業日がどのように設定されるのか政府公表まで誰にもわかりません。

ちなみに，基本的にはと書きましたが，当地の某大学の付属中学校国際部に通学させている次女の学校休業日は，学校当局が政府の「調整」結果を読み誤ったせいなのか，端午節当日の 12 日（水）から 14 日（金）までとされ，15 日と 16 日の土日が登校日となって，親子で 1 週間以上完全なすれ違いの形となっていました。筆者の場合，海外勤務経験はアジア地域しかありませんが，日本でも採用されている「ハッピーマンデー」的な「動く祝日」の例は経験したことがありますが，その前後数日を巻き込んで大幅に移動し，かつ国内でも（最終的に日数面での辻褄は合わせられるものの）運用状態に差異がある国というのは他にあり得ないのではないかと思っています。また，これは単なる「休日出勤」と言ってしまえばそれまでですが，国家統計局から公表される重要な経済指標の発表日が土日であったり，（日数は計 7 日間程度と長いものの）日本で言えば正月休みに当たる春節連休の終わりの方で重要な金融政策の変更が発表されたこともあり，エリート層は働き者が多いという風にも考えられますが，やはり何というか過度に弾力的な感じがします。

もっとも，祝日が「さまよう」という珍しい事象は発生するものの，92 年の江沢民政権以降は，その次の胡錦涛政権とも合わせて，中国における最高指導者の任期は 2 期 10 年で安定しています。対外的にも対内的にも課題は山積しており，党や政府高官の失脚という事態も時折見受けられるものの，政権運営，国家運営，という意味では基本的に「さまよう」ことはないようです。日本では祝日が「さまよう」ことはなく先々の予定を立てることは容易ですが，参議院選挙も終わった今後は，1 年ごとに首相が変わる「さまよう」国家運営から早く脱却し，「さまよわない」安定的な政権運営，国づくりが可能となることを切に期待しております。

（2013 年 7 月 22 日）



ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載･複製を禁じます